(5) 景観

1) 景観資源の状況

（ア）文献その他の資料調査

関係 3 市における景観資源は表 3.2.206、図 3.2.86 に示すとおりである。

このうち、埋立事業実施区域及びその周辺の海域には、浦添市の石切場跡、ノッチ、波食棚が存在する。

表 3.2.206　関係 3 市における景観資源

区分	浦添市	那覇市	宜野湾市
地形・地質等	• 海成段丘 • 石灰岩提 • 石切場跡 • ノッチ • 波食棚	• 海成段丘	• 海成段丘
特定植物群落等	• 屋冨祖の御願所のガジュマル • 内間の大アカギ	• 那覇市末吉の植生 • 首里金城町の大アカギ群 • 識名園のシマチスジノリ発生地 • ガーナー森 • 那覇市漫湖サーザ森のナハキハギ群落	• 大謝名メーヌカー淡水紅藻

出典：1.「第3回自然環境保全基礎調査 沖縄県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）
2.「生物多様性保全利用指針OKINAWA」（令和4年版、沖縄県環境部自然保護課）
3.「文化財課要覧 令和7年度版」（令和8年、沖縄県教育庁文化財課）
4.「浦添市西海岸の石切場跡 城間-仲西地区」（平成22年3月、浦添市教育委員会）
5.「浦添市西海岸の石切場跡 港川地区２」（平成24年3月、浦添市教育委員会）

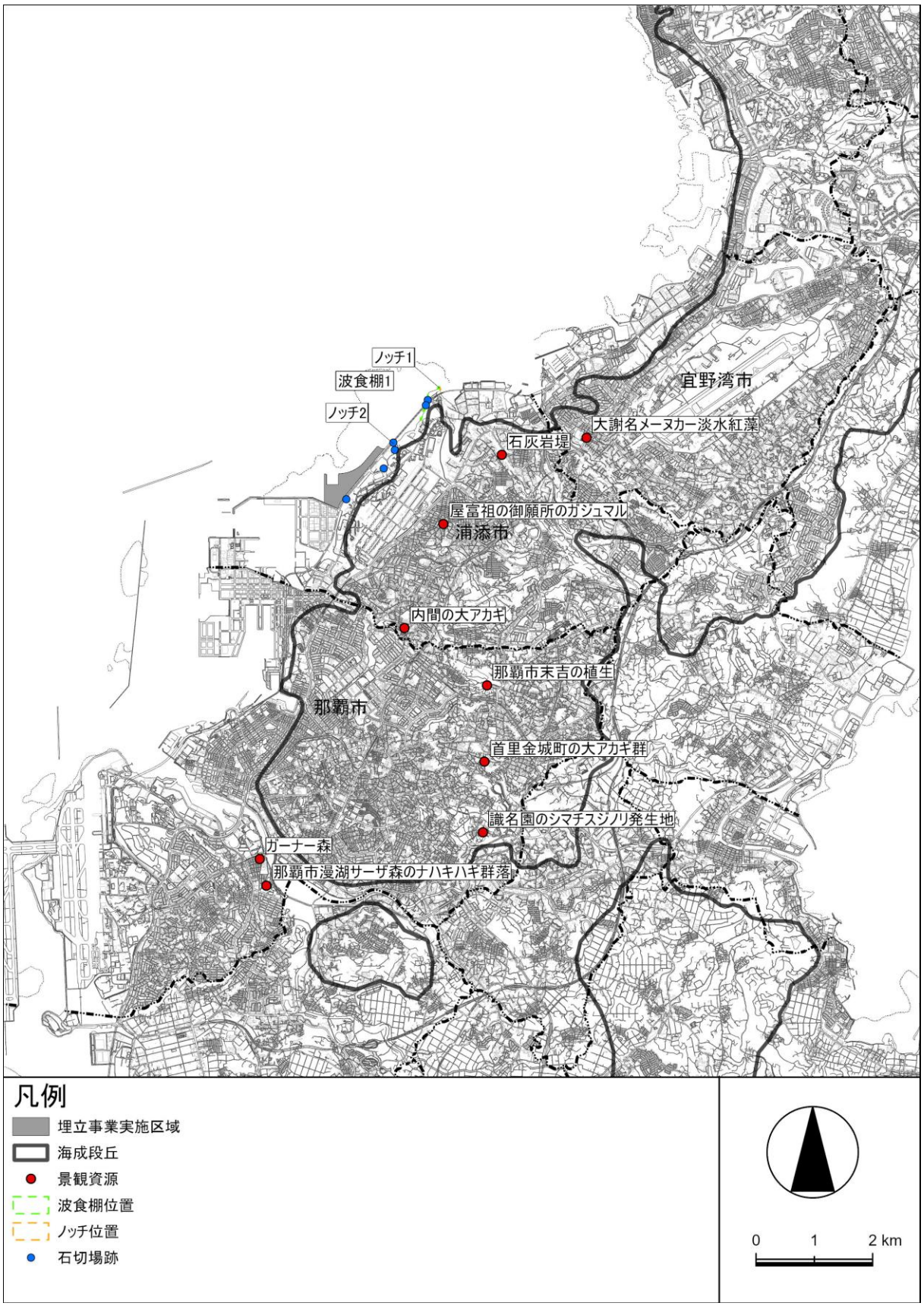


図 3.2.86　景観資源の分布状況

2）主要な眺望点及び眺望景観の状況

（ア）文献その他の資料調査

埋立事業実施区域を眺望可能と思われる地点・地域は表 3.2.207 に、眺望点の分布は図 3.2.87 に示すとおりである。

埋立事業実施区域は平坦な地形のため、高台に位置する地点からの眺望の可能性が考えられる。それらの地点は、浦添市役所、浦添グスク等の 10 地点となっている。

表 3.2.207　埋立事業実施区域周辺の眺望点

市別	名称	標高	眺望距離
浦添市	①浦添市役所	90 m	3.4 km
	②浦添グスク	100 m	4.3 km
	③浦添大公園展望台	120 m	3.5 km
	④運動公園県道側東屋	80 m	3.5 km
	⑤ようどれ館北側展望台	120 m	4.2 km
	⑥夕陽が丘公園	93 m	3.7 km
那覇市	⑦首里城	130 m	5.2 km
	⑧雨乞御嶽	130 m	5.6 km
宜野湾市	⑨嘉数高台公園	90 m	4.8 km
	⑩森川公園	56 m	5.5 km

出典：1.「浦添市景観まちづくり計画」（令和4年、浦添市）
2.「那覇市景観計画」（平成23年、那覇市）
3.「宜野湾市景観計画」（平成27年、宜野湾市）

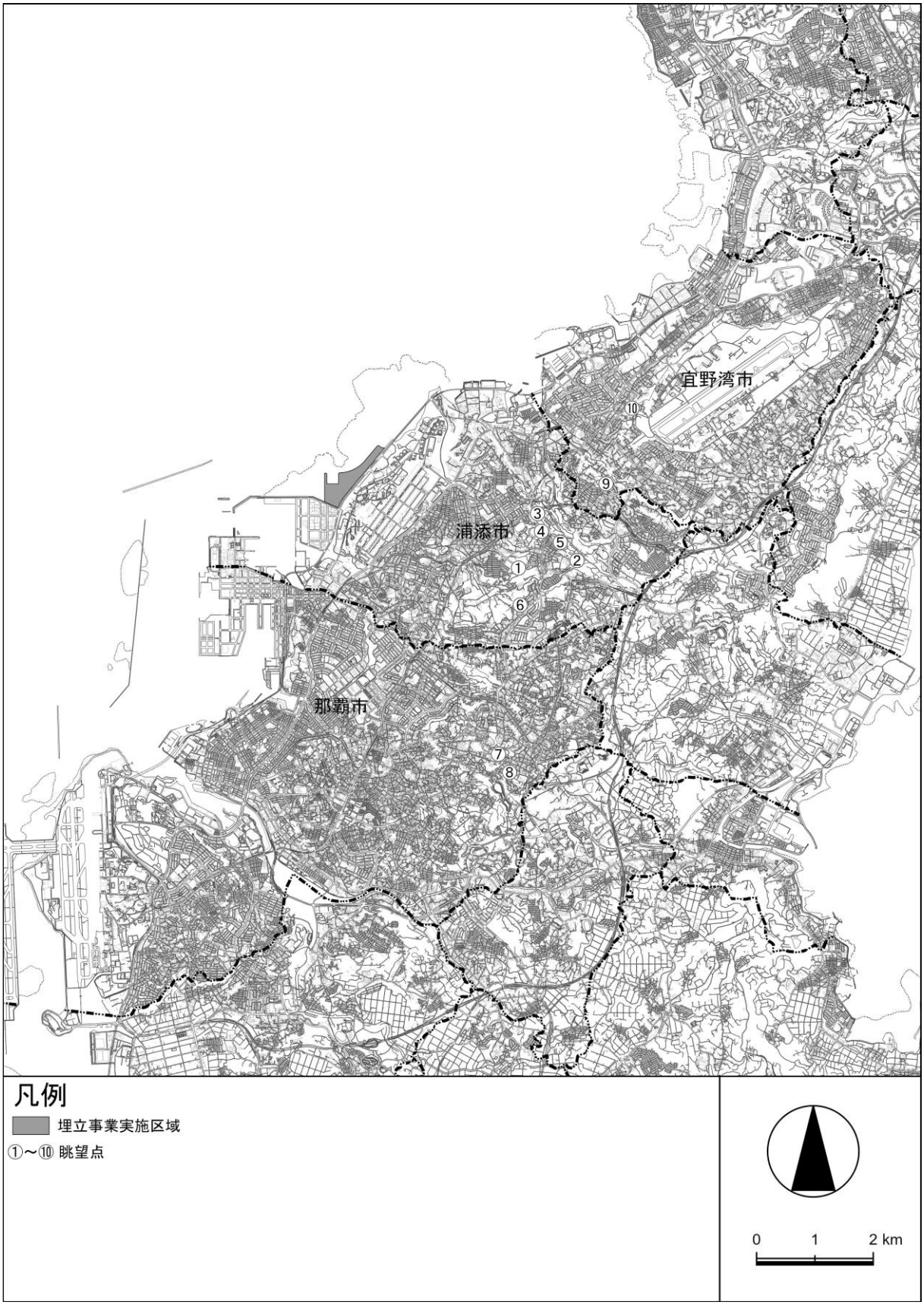


図 3.2.87　眺望点の分布

（イ）既存の現地調査

ア）調査概要

平成25年度及び令和3年度における調査概要は、表 3.2.208に示すとおりである。

表 3.2.208(1)　景観の調査概要（平成25年度）

調査項目	(a) 眺望景観の状況 ①主要な眺望点の状況　②景観資源の状況　③主要な眺望景観の状況 (b) 囲繞景観の状況 ①景観区の区分　②景観区の状況　③囲繞景観の価値
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書
調査時期	夏季：平成26年7月15～18日
調査位置	図 3.2.88(1)に示すとおり。
調査方法	(a) 眺望景観の状況 ①主要な眺望点の状況 埋立事業実施区域が視認可能な範囲を抽出するため、地図ソフトによる可視領域の抽出し、文献その他の資料等を勘案し、主要な眺望点の地点を抽出した。 ②景観資源の状況 景観資源について、「文化財保護法、条例」で指定された名勝、「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査」（環境庁）等の情報の収集等を整理し、抽出された景観資源より、調査対象範囲内を現地踏査し、眺望性の観点に照らして景観資源を抽出した。 ③主要な眺望景観の状況 主要な眺望景観の状況を把握するため、上記より抽出された眺望点及び景観資源について現地調査を行い、日中及び夕方の時間帯に主要な眺望景観及び眺望点の状況等の写真撮影を行い、眺望景観の状況を把握した。 ④主要な眺望景観の価値 主要な眺望景観について、普遍価値及び固有価値に区分し、その価値を把握した。 (b) 囲繞景観の状況 ①景観区の区分 埋立事業実施区域及びその周辺の地形、底質の状況、海域生物の現地調査の結果等の整理・分析を行い、景観区を区分した。 ②景観区の状況 景観区の状況として、場の状態、利用の状態、眺めの状態を把握するため、現地調査における写真撮影により把握した。 ③囲繞景観の価値 景観区分に応じた囲繞景観の普遍価値及び固有価値を整理した。

表 3.2.208(2)　景観の調査概要（令和3年度）

調査項目	(a) 眺望景観の状況
実施機関	那覇港管理組合
報告書名	令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託報告書
調査時期	令和3年11月24日
調査位置	図 3.2.88(2)に示すとおり。
調査方法	調査地点の詳細な位置については、一般市民が立ち入れる場所を想定し、確定した。なお、県営港川市街地住宅は、居住者のみが対象となる。 対象地点において那覇港を望む複数の方角から景観写真を撮影し、主要な眺望景観の状況を把握した。

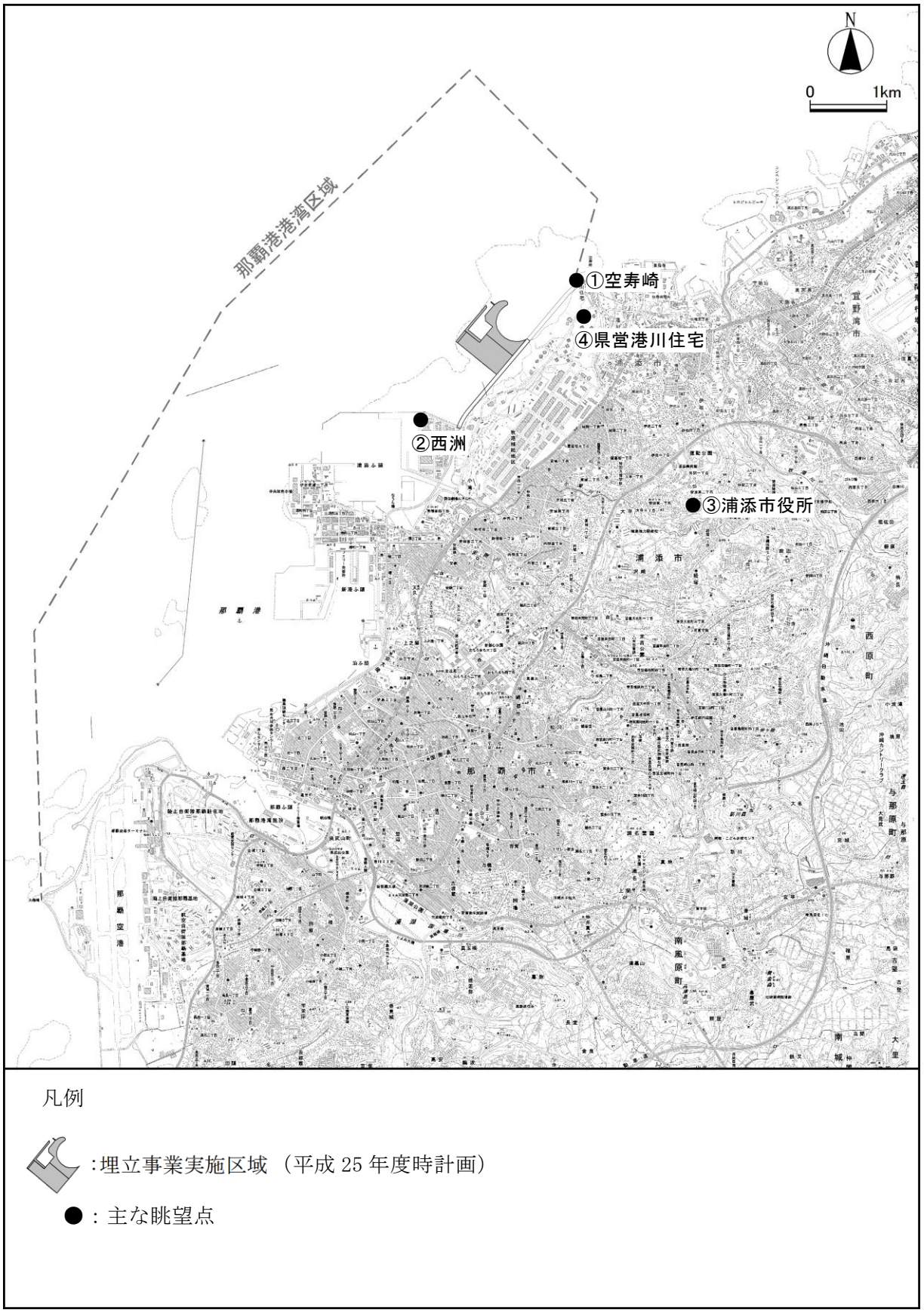
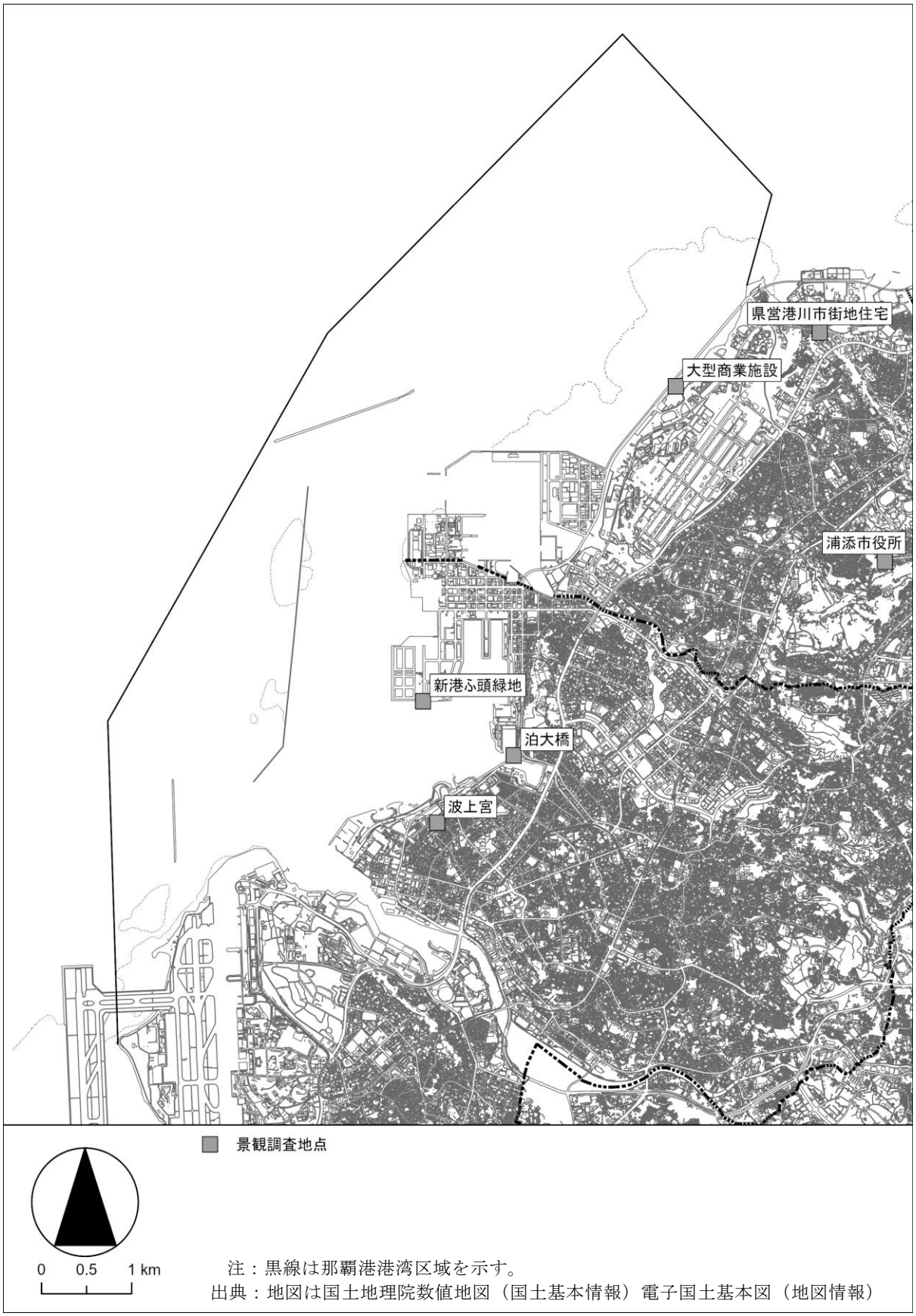


図 3.2.88(1)　既存の現地調査地点（平成25年度、景観）



注：黒線は那覇港港湾区域を示す。
出典：地図は国土地理院数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）

図 3.2.88(2)　既存の現地調査地点（令和 3 年度、景観）

イ）調査結果（平成 25 年度）

(a) 眺望景観

平成 25 年度における主要な眺望景観の状況は表 3.2.209 に、景観資源の状況は表 3.2.210 に、既存の現地調査地点は図 3.2.88(1)に示すとおりである。

表 3.2.209（1）　主要な眺望景観の状況

主な眺望点	眺望景観の状況（日中）	眺望景観の状況（夕方）
①空寿崎		
	［景観資源］ ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● 人工物（橋梁、西洲護岸）	［眺望状況］ 眺望が開けており、埋立事業実施区域北側からの状況を確認できる。
②西洲		
	［景観資源］ ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● 人工物（埋立地、ｷｬﾝﾌﾟ・ｷﾝｻﾞｰ） ● 藻場 ● 史跡・文化財（石切場跡）	［眺望状況］ 眺望が開けており、埋立事業実施区域南側からの状況を確認できる。
③浦添市役所		
	［景観資源］ ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● サンゴ類（リーフエッジ） ● 人工物（橋梁、西洲護岸）	［眺望状況］ 展望デッキにおいて、キャンプ・キンザーのマンションの間から埋立事業実施区域を望むことができる。

表 3.2.209（2）　主要な眺望景観の状況

主な眺望点	眺望景観の状況（日中）	眺望景観の状況（夕方）
④県営港川住宅		
	［景観資源］ ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● サンゴ類（リーフエッジ） ● 人工物（橋梁、西洲護岸）	［眺望状況］ 最上階の 11 階において、キャンプ・キンザーのマンションの間から埋立事業実施区域を望むことができる。

表 3.2.210　景観資源と構成要素の概要

景観資源	構成要素の概要
干潟	干潟は、埋立事業実施区域周辺一帯を占めており、また、浦添市民を中心に行ったアンケート調査においても特徴的な景観として感じている人が多く、重要な景観資源のひとつとなっている。
岩礁	浦添ふ頭地区はサンゴ礁海域であり、基盤環境のほとんどが岩盤により構成されている。埋立事業実施区域の海岸のほとんどを占めている景観資源となっている。
サンゴ類	埋立事業実施区域内にはなく、沖合いのリーフエッジを中心に存在している。
藻場	リュウキュウスガモやウミヒルモなどの海草類をはじめ、アーサなどの地元住民にも親しまれている海藻類も繁茂している。
地形	地元のシンボルとなっているカーミージーの他、特徴的な地形として波食棚やノッチが存在する。

表 3.2.211（1）　主要な眺望景観の価値の状況

価値軸	認識項目	有する価値
①空寿崎		
普遍価値	自然性	海域においては干潟が前面に広がり自然的価値を有するが、海岸は人工の直立護岸であり、視界には臨港道路（浦添線）の橋梁が含まれていることから、自然的価値は高くないと考えられる。
	眺望性	陸域の植生帯と干潟域が人工護岸により分断されているが、海側は水平線まで見渡せ、眺望性は高いと考えられる。
	利用性	駐車場等の施設はないものの、家族連れによる潮干狩りや自然観察会等に多く利用されており、利用性は高いと考えられる。
固有価値	固有性	主な景観構成要素である干潟は、他の地域にも存在するが、本島中部の西海岸においては、沿岸域の埋立等で干潟域が減少していることから、固有性を有すると考えられる。
	歴史性	国土地理院の地形図を見ると、空寿崎周辺は昭和 36 年以降に埋立てられており、この頃を境に価値が変化したと考えられ、場としての歴史性は高くないと考えられる。
	親近性	地元の港川自治会や崎原自治会及び港川小学校等が里海保全の活動を行っているほか、浦添市、那覇市、宜野湾市を中心に市民に親しまれている。また、場のシンボルとしてカーミージー（亀ノ瀬）が存在することから、親近性は高いと考えられる。
②西洲		
普遍価値	自然性	海域においては藻場が広がり自然的価値を有するが、海岸は人工の直立護岸であり、視界には臨港道路（浦添線）及び既存の埋立地等が含まれていることから、自然的価値は高くないと考えられる。
	眺望性	護岸に登らなければ眺望性を確保できないものの、埋立地の護岸に上れば、沖合及び沖縄島中部の海岸まで見渡すことができることから、眺望性はやや高いと考えられる。
	利用性	駐車場等の施設はないものの、護岸及び緑地において、休憩による利用がみられる。また、護岸沿いにかけられている複数の木梯子で、護岸の上に登れるようになっており、利用性はやや高いと考えられる。
固有価値	固有性	主な景観構成要素である干潟や藻場は、他の地域にも存在するが、本島中部の西海岸においては、沿岸域の埋立等で藻場が減少していることから、固有性を有すると考えられる。
	歴史性	西洲の埋立地は近年造成された場所であり、この場からの眺望の歴史性は浅いことから、場としての歴史性は高くないと考えられる。
	親近性	地元住民により、護岸付近は休憩の場として利用されており、親近性はやや高いと考えられる。

表 3.2.211（2）　主要な眺望景観の価値の状況

価値軸	認識項目	有する価値
③浦添市役所		
普遍価値	自然性	浦添市街の先に海域を望むことができるが、海岸までは建造物等に阻まれており、自然的価値は低いと考えられる。
	眺望性	眺望点が高いため遠くまで見渡すことができることから、眺望性は高いと考えられる。
	利用性	公共施設であることから、利用性は高いと考えられる。
固有価値	固有性	浦添市街と海域を一望できる固有性を有する。
	歴史性	近年建設された建造物であり、眺望の歴史性は低いと考えられる。
	親近性	眺望施設としての利用者は少ないことから、親近性は低いと考えられる。
④県営港川住宅		
普遍価値	自然性	キャンプ・キンザーの先に海域を望むことが出来るが、海岸域は建造物等に阻まれており、自然的価値は低いと考えられる。
	眺望性	眺望点が高いものの、キャンプ・キンザーの建造物に阻まれ、眺望性はやや低いと考えられる。
	利用性	誰でも利用することはできるが、公共的な施設ではないことから、利用は住民に限られており、利用性は低いと考えられる。
固有価値	固有性	海岸域に近い場所で眺望点が高い場所として固有性を有する。
	歴史性	近年建設された建造物であり、眺望の歴史性は低いと考えられる。
	親近性	利用は住民に限られていることから、親近性は低いと考えられる。

(b) 囲繞景観

埋立事業実施区域及びその周辺の囲繞景観について、表 3.2.212 に示す景観区分を行い、埋立事業実施区域（平成 25 年度）内外においてそれぞれの景観区分を網羅するよう囲繞景観の地点を設けた（表 3.2.213 及び図 3.2.89)。囲繞景観の景観区の状況は、表 3.2.214 に示すとおりである。また、埋立事業実施区域及びその周辺における囲繞景観の普遍価値及び固有価値は、表 3.2.215 に示すとおりである。

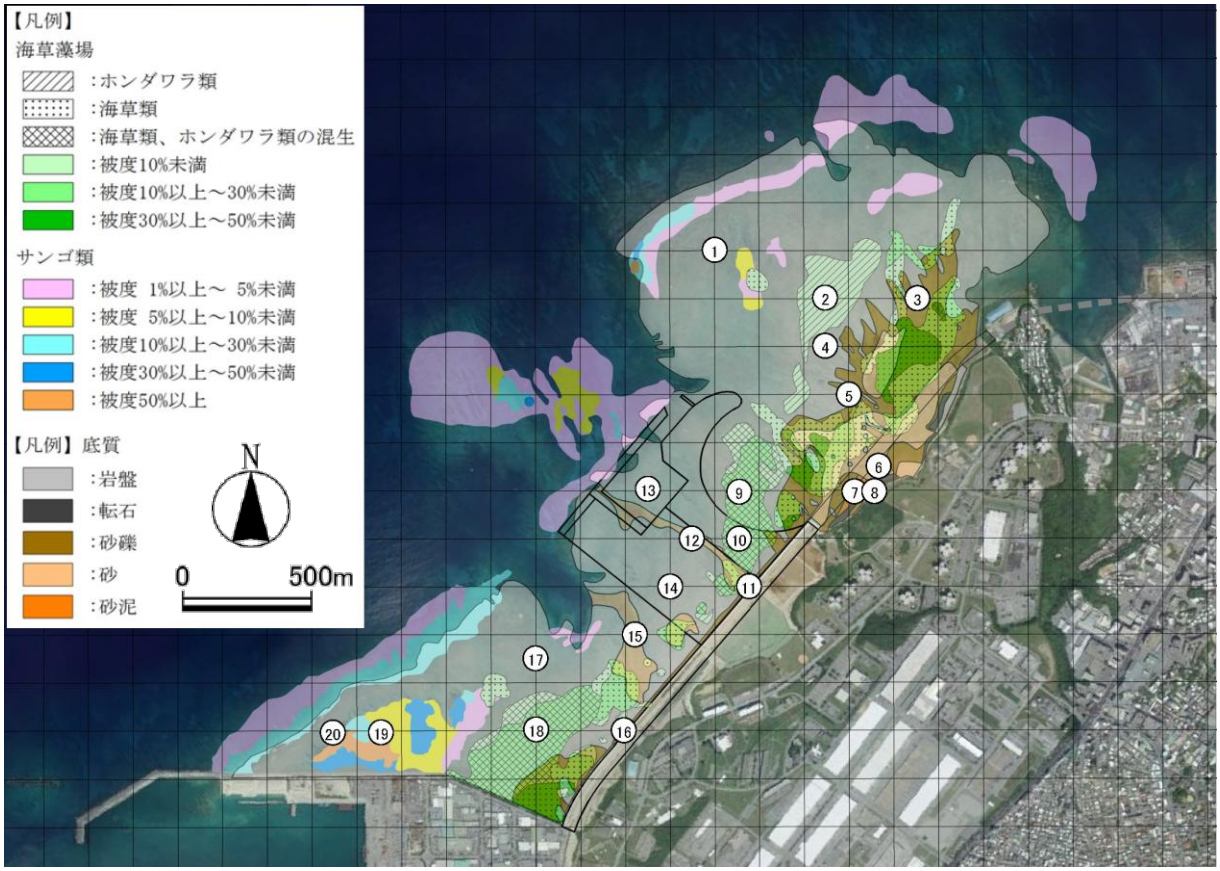
表 3.2.212　囲繞景観の景観区分

地学要素	岩盤、転石、砂礫、砂、砂泥
生物要素	サンゴ類分布域、藻場分布域（海草藻場、ホンダワラ藻場、混成藻場）
自然現象	海域、陸域
人文要素	埋立事業実施区域（平成 25 年度）内外

表 3.2.213　囲繞景観の調査位置

地点番号	埋立区分	景観区分	撮影日
①	埋立事業実施区域北側	岩盤	2014/9/22
②		ホンダワラ藻場	2014/9/22
③		海草藻場	2014/8/24
④		岩盤	2014/8/24
⑤		砂礫	2014/8/24
⑥		混成藻場	2014/9/22
⑦	陸域	砂礫	2014/8/24
⑧		砂泥	2014/8/24
⑨		転石	2014/8/24
⑩	埋立事業実施区域内	混成藻場	2014/9/22
⑪		砂礫	2014/9/22
⑫		砂	2014/9/22
⑬		岩盤	2014/9/22
⑭		岩盤	2014/9/22
⑮	埋立事業実施区域南側	砂	2014/9/22
⑯		砂礫	2014/8/25
⑰		岩盤	2014/8/25
⑱		混成藻場	2014/8/25
⑲		サンゴ類	2014/8/24
⑳		岩盤	2014/8/24

注：埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。



注：1.○番号は、表 3.2.213 に対応する。
2.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。

図 3.2.89　景観区分及び調査地点

表 3.2.214（1）　囲繞景観の景観区の状況

①埋立事業実施区域北側・岩盤	⑤埋立事業実施区域北側・砂礫
	
②埋立事業実施区域北側・ホンダワラ藻場	⑥埋立事業実施区域北側・混成藻場
	
③埋立事業実施区域北側・海草藻場	⑦陸域・砂礫
	
④埋立事業実施区域北側・岩盤	⑧陸域・砂泥
	

注：1.〇番号は、表 3.2.213 及び図 3.2.89 に対応する。
　　2.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。

表 3.2.214（2）　囲繞景観の景観区の状況

⑨陸域・転石	⑬埋立事業実施区域内・岩盤
	
⑩埋立事業実施区域内・混成藻場	⑭埋立事業実施区域内・岩盤
	
⑪埋立事業実施区域内・砂礫	⑮埋立事業実施区域南側・砂
	
⑫埋立事業実施区域内・砂	⑯埋立事業実施区域南側・砂礫
	

注：1.〇番号は、表 3.2.213 及び図 3.2.89 に対応する。
　　2.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。

表 3.2.214（3）　囲繞景観の景観区の状況

⑰埋立事業実施区域南側・岩盤



⑱埋立事業実施区域南側・混成藻場



⑲埋立事業実施区域南側・サンゴ類



⑳埋立事業実施区域南側・岩盤



注：1.〇番号は、表 3.2.213 及び図 3.2.89 に対応する。
2.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。

表 3.2.215　囲繞景観の価値の状況

区分	景観区分	囲繞景観の価値		
埋立事業実施区域内	岩盤 混成藻場 砂 砂礫	普遍価値	多様性	海藻草類がパッチ状に生育し、藻場と海底面の岩礁や砂礫によるモザイク上の景観を形成していることで、多様性を有する。
			自然性	人工構造物もなく自然性が高い。
			利用性	浜下り等で利用されているものの、比較的利用性は低い。
		固有価値	固有性	藻場～海浜植生までの連続性は、本島中部の西海岸において固有性を有する。
			歴史性	人工護岸や埋立地の存在のため、歴史性は低い。
			親近性	潮干狩り、浜下り等による利用は少ないものの、階段式護岸により埋立地からアクセスが可能であることから、今後の利用が期待される。
埋立事業実施区域外	岩盤 海草藻場 ホンダワラ藻場 混成藻場 サンゴ類 砂 砂礫	普遍価値	多様性	海藻草類がパッチ状に生育し、藻場と海底面の岩礁や砂礫によるモザイク上の景観を形成していることで、多様性を有する。
			自然性	人工構造物もなく自然性が高い。
			利用性	潮干狩り、浜下り等で利用されており、アクセスルートに近いことから利用性を有する。
		固有価値	固有性	藻場～海浜植生までの連続性は、本島中部の西海岸において固有性を有する。
			歴史性	空寿崎周辺のごく一部においては人工的改変が少なく、歴史性を有するものの、その他の場所においては人工護岸や埋立地の存在のため、歴史性は低い。
			親近性	潮干狩り、浜下り等で利用されており、親近性を有する。
陸域	砂泥 砂礫 転石	普遍価値	多様性	干潟から海浜植生帯まで変化がみられていることから多様性を有する。
			自然性	背後に海浜植生帯が確認できるものの、前面に臨港道路浦添線の橋梁部が視認でき、コンクリートがらなどが散在していることから自然性は低い。
			利用性	現在、人の利用は見られていないものの、階段式護岸により埋立地からアクセスが可能であることから、今後の利用が期待される。
		固有価値	固有性	浦添ふ頭地区における限られた砂浜が存在することから、固有性を有する。
			歴史性	キャンプ・キンザーの管理区域内に隣接しており、現在、人の利用もほとんどないことから、歴史性及び親近性は低い。
			親近性	

注：埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。

ウ）調査結果（令和 3 年度）

令和 3 年度における主要な眺望景観の状況は図 3.2.90 に、既存の現地調査地点は図 3.2.88(2)に示すとおりである。



図 3.2.90(1)　眺望景観の状況（県営港川市街地住宅）



図 3.2.90(2)　眺望景観の状況（大型商業施設屋上）



図 3.2.90(3)　眺望景観の状況（浦添市役所）



図 3.2.90(4)　眺望景観の状況（新港ふ頭地区）



図 3.2.90(5)　眺望景観の状況（泊大橋）



図 3.2.90(6)　眺望景観の状況（波上宮）

(6) 人と自然との触れ合い活動の場

1) 人と自然との触れ合い活動の場の状況

（ア）文献その他の資料調査

県や関係 3 市の観光資料等より、関係 3 市における主たる人と自然との触れ合い活動の場として海岸域における公園、海水浴場や散策路を含む公園等の場を抽出・整理した。

関係 3 市における人と自然との触れ合い活動の場は、表 3.2.216 及び図 3.2.91 に示すとおりである。

表 3.2.216　人と自然との触れ合い活動の場

浦添市	那覇市	宜野湾市
伊祖公園（伊祖城跡） 浦添大公園（浦添城跡、浦添ようどれ、伊祖の高御墓、当山の石畳道） カーミージー 浦添運動公園	首里城公園 波の上ビーチ 波の上うみそら公園 若狭海浜公園	トロピカルビーチ ぎのわん海浜公園 森川公園 嘉数高台公園

出典：1.「浦添市勢要覧2018」（平成30年、浦添市）
2.「浦添市観光ガイドマップ」（令和7年、浦添市）
3.「那覇市公式ガイドブック」（令和7年、那覇市）
4.「那覇市観光協会公式ガイドマップ」（令和7年、（一社）那覇市観光協会）
5.「ねたての都市ぎのわん GINOWAN CITY GUIDE BOOK」（令和6年、（一社）宜野湾市観光振興協会）

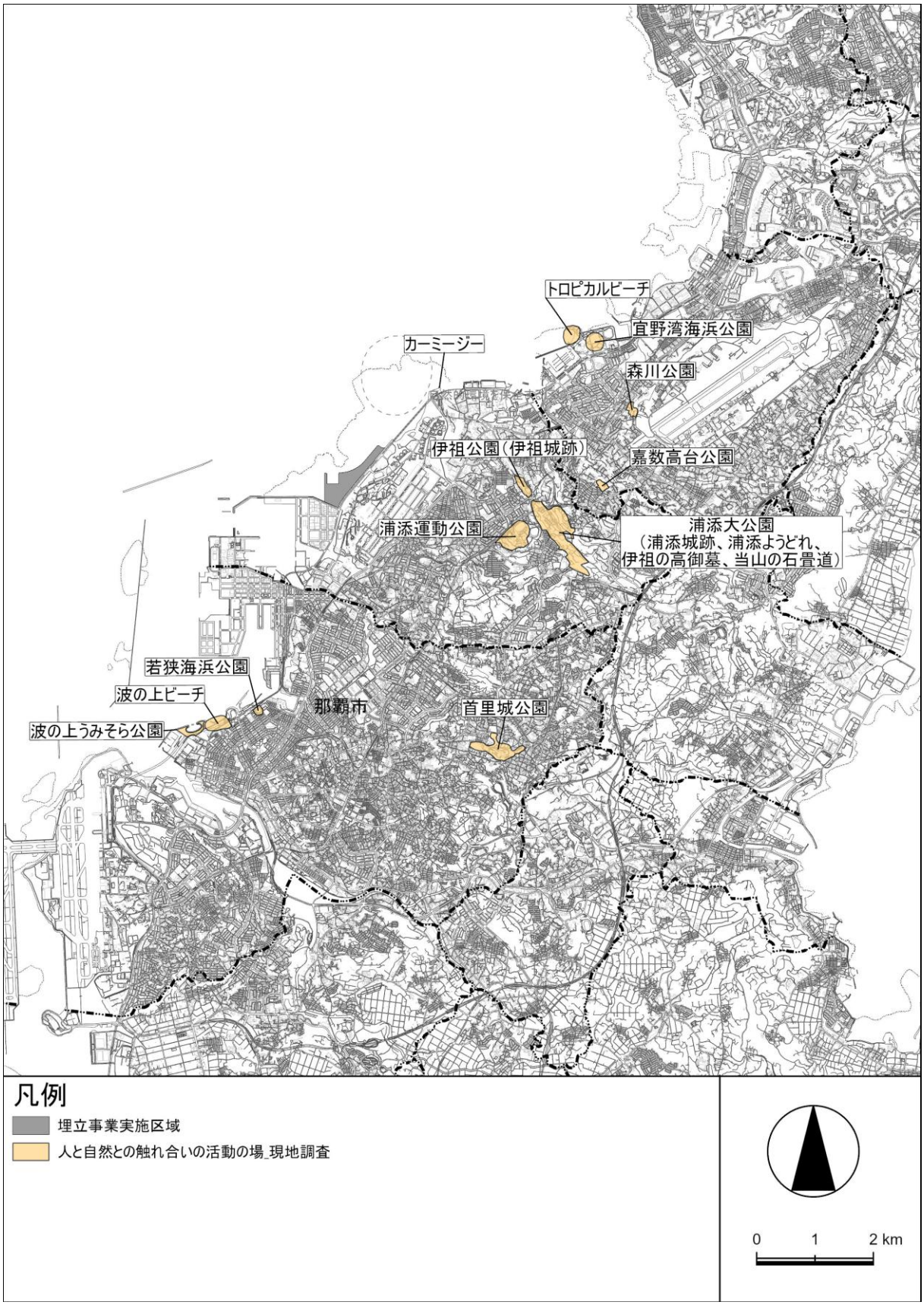


図 3.2.91　人と自然との触れ合い活動の場の状況

（イ）既存の現地調査

ア）調査概要

人と自然との触れ合い活動の場の調査概要は表 3.2.217 に示すとおりである。

表 3.2.217(1)　人と自然との触れ合い活動の場の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	(a) 人と自然との触れ合い触れ合い活動の場の概況 (b) 主要な人と自然との触れ合い活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況 (c) 主要な人と自然との触れ合い活動の場へのアクセス形態
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書
調査時期	四季及び浜下り（休日・平日）
調査位置	図 3.2.92 に示すとおり。
調査方法	(a) 人と自然との触れ合い触れ合い活動の場の概況 触れ合い活動の場の状況等について、文献調査や地元ヒアリング等により把握した。 (b) 主要な人と自然との触れ合い活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況 調査範囲（埋立事業実施区域及びその周辺）を、利用形態及び資源性の観点から、図 3.2.92 に示す 5 つに区分し、カウント調査、写真撮影等により主要な人と自然との触れ合い活動の場の利用状況、利用形態及び利用環境等についてカウント調査、写真撮影等により把握した。 (c) 主要な人と自然との触れ合い活動の場へのアクセス形態 調査範囲内において設定した地点において、アンケート調査及び写真撮影等の実施により、アクセス形態について把握した。

表 3.2.217(2)　人と自然との触れ合い活動の場の調査概要（平成 31 年度）

調査項目	人と自然との触れ合い活動の場
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	平成 31 年度那覇港浦添ふ頭地区北側緑地整備事業に係る環境調査（存在及び供用）業務委託報告書
調査時期	平成 18 年度～平成 31 年度の浜下りの日及び前後の休日
調査位置	図 3.2.93 に示すとおり
調査方法	埋立事業実施区域及びその周辺における、人の立ち入り状況を把握するため、アンケート調査を行うとともに、見通しのきく地点からのカウント調査を行った。



注：灰色部分は調査時（平成 25 年度）の埋立事業実施区域を示す。

図 3.2.92　既存の現地調査対象範囲における活動区の区分（平成 25 年度）

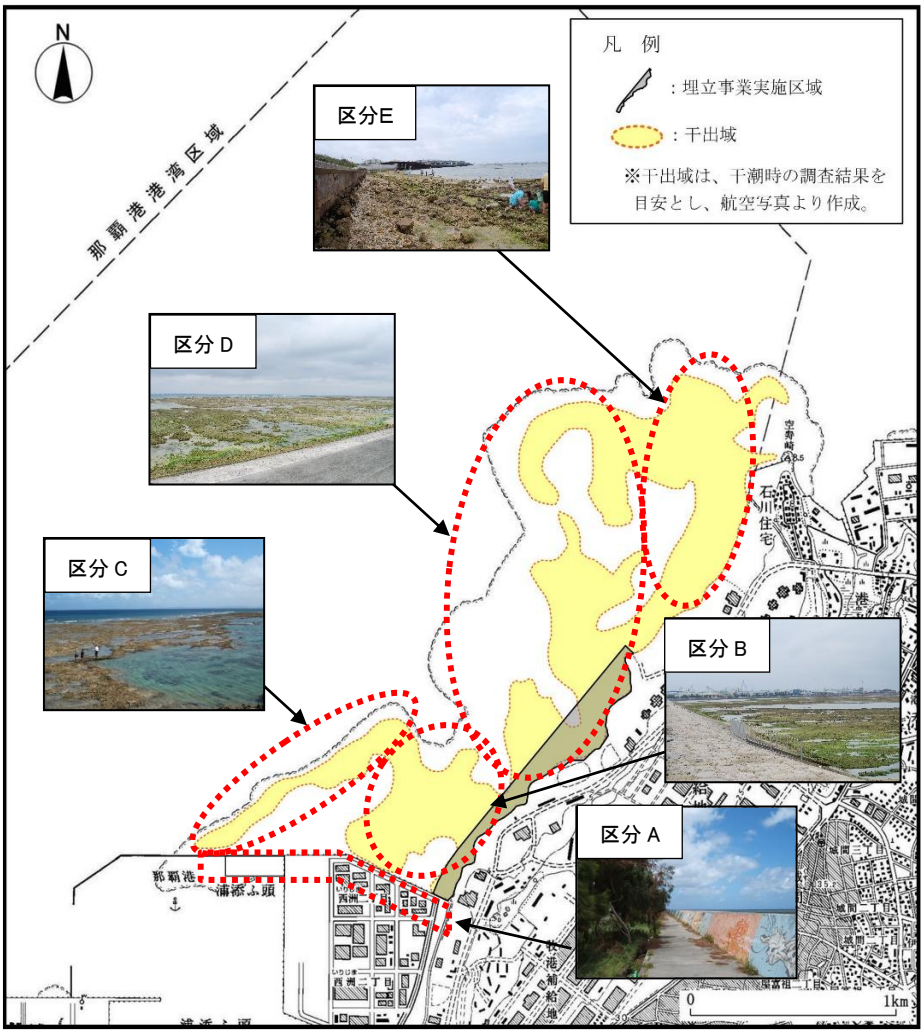


図 3.2.93　既存の現地調査対象範囲における活動区の区分（平成 31 年度）

イ）調査結果（平成 25 年度）

カウント調査による四季及び浜下りにおける区分別利用者数は図 3.2.94 に、利用形態別利用人数は図 3.2.95 に、埋立事業実施区域及びその周辺におけるアクセス形態は、図 3.2.96 に示すとおりである。

調査期間：平成 26 年 2 月 16 日～11 月 9 日

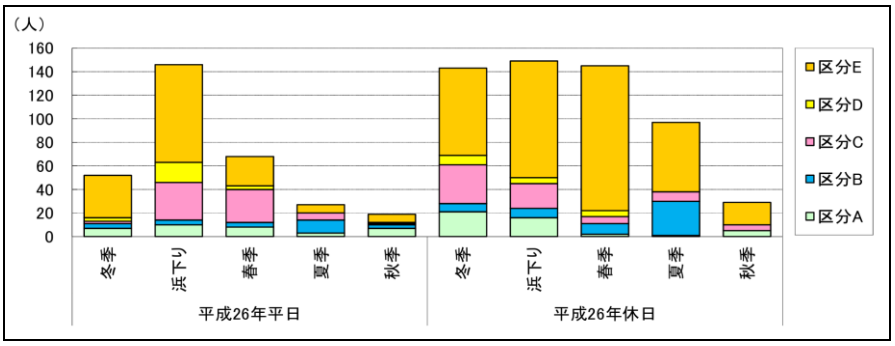


図 3.2.94　各調査時期における区分別利用者数

調査期間：平成 26 年 2 月 16 日～11 月 9 日

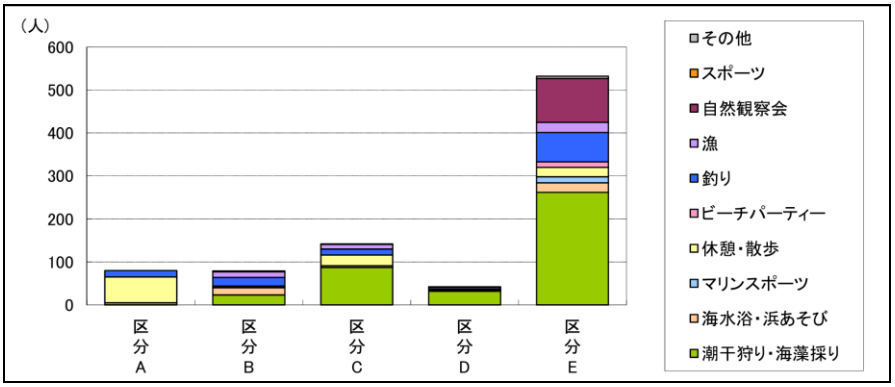


図 3.2.95　各区分における利用形態別利用者数

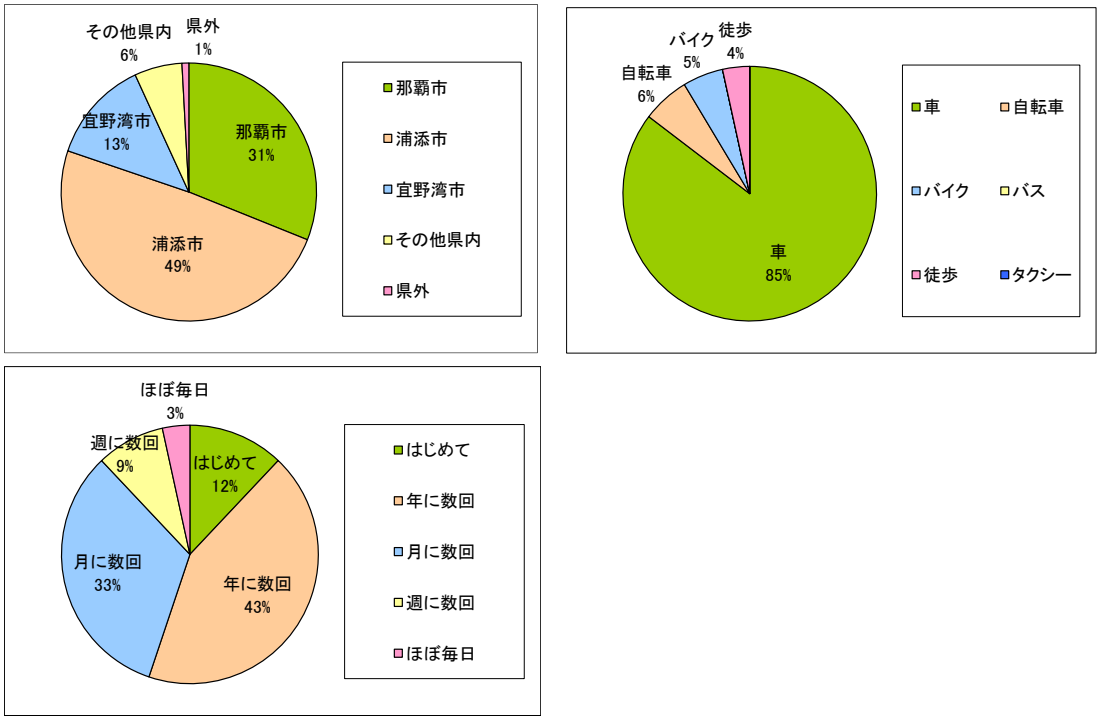


図 3.2.96　埋立事業実施区域及びその周辺におけるアクセス形態

ウ）調査結果（平成 31 年度）

利用者数について、平成 31 年度の調査では過年度に比べ利用者が多くみられた。4 月 7 日（浜下り日/休日）は、天候が晴れていたことや浦添北道路、臨港道路浦添線が開通したことによりはじめて利用する人が増えたことが要因と考えられた（なお、大型商業施設は開店前）。

利用形態は、休日、浜下り日ともに潮干狩りが最も多い状況であり、主な利用形態に大きな変化はみられなかった。近年では、これまでの利用形態に加えて、海水浴・浜遊び、休憩・散歩及び釣りが比較的多くみられていた。

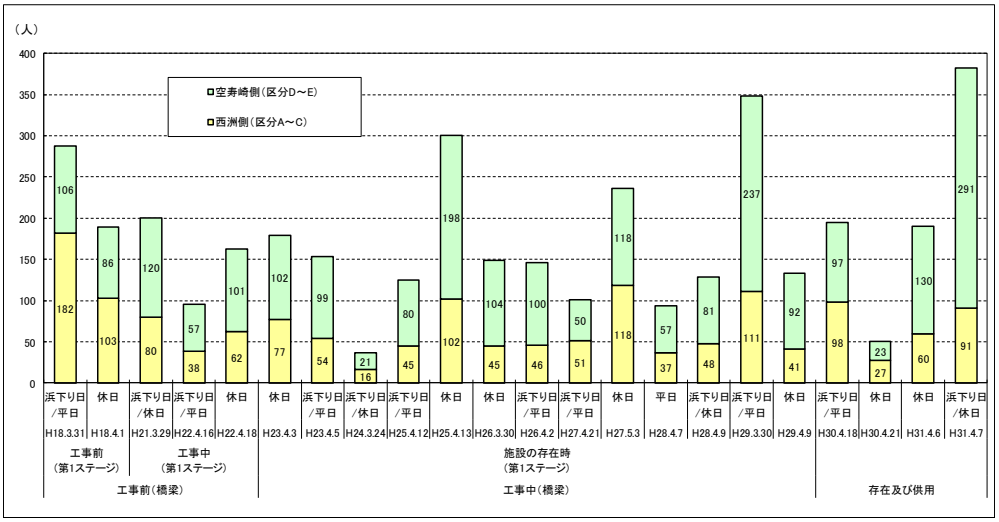


図 3.2.97　活動区の利用者数の変化

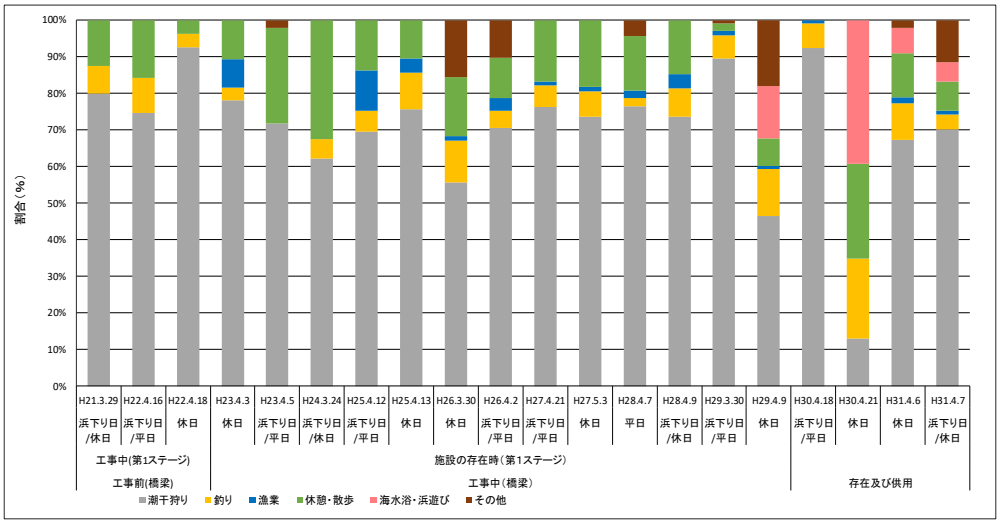


図 3.2.98　利用形態の経年変化

(7) 歴史的・文化的環境

1) 史跡等の分布状況

（ア）文献その他の資料調査

ア）史跡・名勝及び天然記念物

「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月法律第 214 号）に基づく史跡・名勝・天然記念物については、沖縄県教育庁文化財課がとりまとめた「令和 7 年度版　文化財課要覧」に整理されている。関係 3 市における指定状況は、表 3.2.68、図 3.2.22 に示すとおりであり、国指定の史跡・名勝及び天然記念物が 17 件、市指定の史跡・名勝及び天然記念物が 54 件となっている。

イ）埋蔵文化財包蔵地

関係 3 市における「文化財保護法」に基づく埋蔵文化財包蔵地は、埋立事業実施区域及びその周辺では、表 3.2.69 及び図 3.2.23 に示すように、計 395 件が指定されている。

ウ）その他の文化財

埋立事業実施区域周辺では、「文化財保護法」に基づく指定はされていないが、地域の伝統的な行事及び祭礼等の場として信仰の対象となっている拝所や井泉及び湧水などが存在する。その他の文化財の状況は表 3.2.218 及び図 3.2.99 に示すとおりである。

また、「浦添市西海岸の石切場跡」（平成 22 年 3 月、浦添市教育委員会）では、那覇港（浦添ふ頭地区）公有水面埋立事業に先立ち埋立予定地にかかる字城間から仲西にかけての石切場跡 4 か所の記録保存調査が行われている。

表 3.2.218　その他の文化財の状況

（単位：箇所）

地区	拝所	井戸及び湧水	洞穴
浦添市	15	20	30
那覇市	140	46	52
宜野湾市	12	12	55

出典：1.拝所「土地保全図付属資料(沖縄県)」（平成6年3月、国土庁土地局）
「浦添市史第六巻資料編5　自然・考古・産業・歌謡」（昭和61年3月、浦添市教育委員会）を一部使用
2.井戸「沖縄県主要水系調査書（沖縄本島中南部地域)」（平成元年3月、沖縄県企画開発部 土地利用対策課）
3.洞穴「沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　中部編」（平成14年3月、沖縄県立埋蔵文化財センター)
「沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　本島周辺離島及び那覇市編（平成16年3月、沖縄県立埋蔵文化財センター）

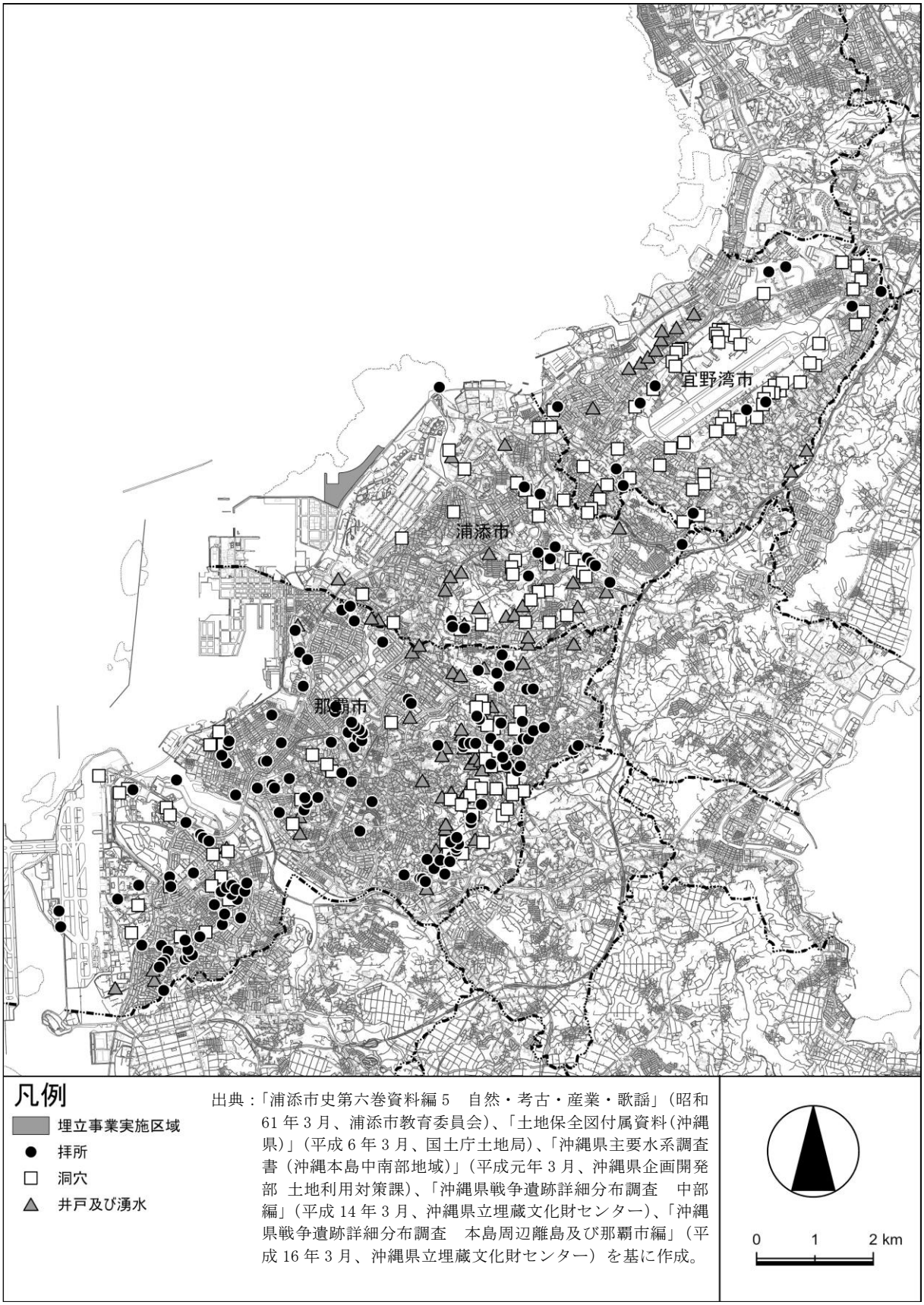


図 3.2.99　拝所・井泉及び洞穴位置

(8) 放射線の量

埋立事業実施区域に最も近いモニタリングポストは那覇市（沖縄県庁）であり、令和6年度の空間線量率は表 3.2.219 に示すとおりであり、41～63nGy/h の範囲で推移している。

表 3.2.219　那覇市（沖縄県庁）の空間線量率

単位：nGy/h

測定地点 / 測定年月	那覇市		
	最低値	最高値	平均値
令和年 4 月	42	62	43
5 月	42	62	43
6 月	41	63	43
7 月	43	49	44
8 月	42	53	43
9 月	41	50	43
10 月	41	58	43
11 月	42	53	43
12 月	43	59	44
令和 7 年 1 月	42	62	44
2 月	42	56	44
3 月	42	60	43

出典：「環境白書　令和 6 年度報告」（令和 8 年 3 月、沖縄県）